

2012年度

事 業 報 告

自 2012年 4月 1日

至 2013年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

〔がん患者支援事業〕

＜患者団体への助成＞

患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会や支援団体などで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、専門委員会での審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の28団体に助成しました。

助成金は、患者同士の交流を促進するためのHP開設、がんケアサロンの運営費、専門医師などを講師に招いての勉強会・講演会開催に伴う諸費用などに充てられました。

＜医療機関への助成＞

3か年の助成が決まっている国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センターの3者で構成される「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」は2012年11月11日、都内で、「がん医療フォーラム2012 地域で支える新しいがん医療のかたち」を開催しました。

フォーラムは二部構成で、第一部では、宮城県で在宅緩和ケアに精力的に取り組んだ故・岡部健医師のビデオメッセージを紹介。緩和ケアには、医師に加えてケアマネジャーや看護師、ボランティア、チャプレン（病院付き聖職者）など多職種によるチームワークが必要だと訴えました。

第二部では、闘病体験を持つ患者会代表や看護師ら4人が登壇、「どこに住んでいても同水準の緩和ケアが受けられる環境づくりが重要」などの課題が指摘されました。

当日の来場者は約500人でした。来場者のアンケートをまとめた結果、フォーラムの内容が分かりやすかったとした割合は66%、フォーラムの内容が役に立ったとした割合は72%、「緩和ケア」「在宅ケア」に関するイメージが前向きに変わったとした割合は66%で、好評な意見が3分の2を超えました。

「看取り」を含めた緩和ケアを正面のテーマに据えたのは、初めての試みで、深刻なテーマであるにもかかわらず、来場者が深い理解や共感を示していました。

当日の様子は、2012年12月24日付読売新聞朝刊全国通しで掲載されました。加えて、読売新聞の医療・介護・健康サイト「ヨミドクター」でも公開中です。このほか、国立がん研究センターがん対策情報センターのサイト「がん情報サービス」において、動画配信されています。

<QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成>

読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員をがん診療連携拠点病院に派遣して弦楽四重奏などを披露しました。2012年度は、東日本大震災の復興祈念の意味も込めて、例年より2会場多い全国8会場（神奈川・石川・福島・岩手・静岡・京都・奈良、宮崎）で開催しました。

各会場では、患者や医師、看護師などの医療従事者約100人が集まりました。会場からは、「素晴らしい音楽から力をもらった」「良い気分転換ができた」などの声が寄せられました。

なお、各会場でのコンサートの様子は、読売新聞の各地域版に掲載されました。